

令和3年11月25日（木）公開
埼玉県立図書館 海外資料担当

外国語図書の選定方法

0. はじめに

現在、埼玉県内在住の外国人は、約160ヵ国、約20万人におよび、今後ますます外国人利用が増えることが考えられます。全ての人が不自由なく利用できる図書館を実現するためには、図書館における多文化サービスを充実させることが必要です。

この講座では、外国語図書選定の方法を埼玉県立図書館の事例も交え詳細にご紹介します。

1. 埼玉県立図書館での外国語図書の選定について

埼玉県立図書館では、外国語図書を3つの区分に分け、2つの担当で分担して収集しています。収集の方針や基準については、「埼玉県立図書館資料収集方針」で基本方針を定め、「埼玉県立図書館資料（図書）選定基準」等で具体的に選定する際の基準を定めています。

(1) 外国語図書の選定を行っている職員

熊谷図書館 海外資料担当（担当4名 グループリーダー1名）

カウンター業務と外国語資料、多文化サービスに関わる業務を行っている。

熊谷図書館 資料収集・整理担当（収集担当5名 担当リーダー1名）

県立図書館2館の資料の収集・整理業務を行っている。

(2) 埼玉県立図書館の外国語図書の区分

一般洋書

ヤングアダルト資料及び、大人向けの外国語図書。選定を行っている担当は、埼玉県立熊谷図書館の海外資料担当。

児童洋書

児童向けの外国語図書。中学生までが対象である。選定を行っている担当は、埼玉県立熊谷図書館の資料収集・整理担当。

埼玉洋書

埼玉県及び関係地域に関する事項を主題とした外国語図書や、埼玉県人を主題とした外国語図書、埼玉県に関わる著者の外国語での著作。地域資料として収集している。選定を行っている担当は、熊谷図書館の資料収集・整理担当。自治体の刊行物等、寄贈による受入が多い。

(3) 重点言語・収集方針・選定基準

①重点言語

英語、中国語、韓国語・朝鮮語、ベトナム語、ポルトガル語（5言語）

②収集方針

「埼玉県立図書館資料収集方針」（平成12年5月16日施行、令和3年4月1日最終改正）

<https://www.lib.pref.saitama.jp/about/admin/housin.html>（埼玉県立図書館）

外国語資料の収集方針

- a 国内刊行図書の類書の有無、海外での評価等を踏まえ、レファレンス・コレクションを構成するものを中心に、国際語として使用されている英語等による資料を幅広く収集する。
- b 県民の国際理解に資する資料、在県外国人の日本及び日本語学習に役立つ基本的な資料を積極的に収集する。
- c 在県外国人の状況をふまえ、アジア系等の言語を中心とした資料の収集に配慮する。
- d 外国語資料の配置については海外資料担当館への配置を原則とするが、主題別専門館の利用にも配慮して配置する。

③選定基準

「埼玉県立図書館資料（図書）選定基準」（平成14年3月25日施行、令和3年4月1日最終改正）

一般洋書の選定基準（抜粋）

以下の資料を積極的に収集する。

- ・各主題に関わる基礎的資料
- ・外国人が日本を理解し生活するための資料
- ・母国について情報を得るための資料
- ・県民が国際理解を深めるための資料

児童洋書の選定基準（抜粋）

児童文学・絵本を中心に、評価の高い外国語資料の選定に努める。

- ・受賞図書（世界的な児童図書賞を受賞した図書）
- ・原典（評価の高い作品で、日本語に翻訳されているものの原典）
- ・日本の作品の外国語訳
- ・アジアの諸言語で書かれた資料（在住外国人の利用が見込まれる資料）
- ・作家及び絵本作家の伝記等

埼玉洋書の選定基準（抜粋）

外国語で書かれた地域資料については、地域資料選定基準を準用して選定する。

2. 選定の準備

外国語図書の選定までの流れで最も重要なのは、ニーズの調査や、方針の策定、ツールの用意など、選定の準備をしっかりと行うことです。日本語の図書は見計らいで選定できますが、外国語図書の場合はツールも自館で用意します。

(1) ニーズの把握

①統計の分析

行政統計

- ・「国籍別在留外国人数（埼玉県内）」

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/bunka/kokusai/toke/index.html> 埼玉県)

法務省の調査結果をもとに、埼玉県内の在留外国人数の推移や国籍別在留外国人数がまとめられている。毎年6月末と12月末の2回分が公開される。

- ・「在留外国人統計」(http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html 法務省)

法務省が調査した在留外国人統計。毎年6月末と12月末の2回分が公開される。「市区町村別 国籍・地域別 在留外国人」では市区町村ごとの国籍別在留外国人数が、「市区町村別 在留資格別 在留外国人」では市区町村ごとの在留資格別在留外国人数が分かる。年齢・男女別の在留外国人数は市区町村単位での統計は出ていないが都道府県別の統計は「都道府県別 年齢・男女別 在留外国人」で国籍別に確認できる。

- ・「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daityo/jinkou_jinkoudoutai-setaisuu.html 総務省)

総務省の統計。外国人住民の人口や、人口動態、世帯数の1月1日現在の最新版が市町村ごとに確認できる。

行政需要調査

- ・「埼玉県外国人住民意識調査」

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/keikakutoukei/monitor.html> 埼玉県)

毎年違ったテーマで行われる埼玉県に住む外国籍の方への意識調査。

②当事者の声をきく

- ・在住外国人が集まる場所に出向き地域の外国人住民に直接話を聞く。(外国人の方が普段利用する商店やレストラン、外国人学校、日本語教室、外国人相談窓口、在住外国人の宗教施設等)
- ・外国人を支援している方に話を聞く。(日本語教室、国際交流団体、外国人相談窓口等)

③最も基本的なニーズ

- ・日本での生活に役立つ情報や資料
- ・日本語を学ぶための情報や資料
- ・出身国の最新情勢や文化的、歴史的情報

⇒民族的・言語的・文化的少数者のニーズは複雑かつ多様であり、同じ民族集団とみなされていても皆が同一とは限らないことに注意が必要

【参考】

「多文化サービス Q&A」(<http://www.jla.or.jp/committees/tabunka/tabid/901/Default.aspx> 日本図書館協会多文化サービス委員会)

「Q5. 外国人のニーズがわかりません。」

『多文化サービス入門』（日本図書館協会多文化サービス研究委員会編 日本図書館協会 2004）

p39-40「Q. 多文化サービスをはじめたいのですが、外国籍住民のニーズを知るにはどうしたらよいのでしょうか？」

（2） 収集の方針や選定の基準を策定

（1）で調査したニーズや自館の状況をもとに、重点言語や収集方針、選定基準を策定する。他館の方針を参考にするとよいが、地域の状況や図書館の特色などによって重点言語や収集方針、選定基準は異なってくることに注意が必要である。また、在住外国人数や情報ニーズは日々変化することから、策定した収集方針や選定基準は状況に合わせ定期的に見直す必要がある。

【参考】

『多文化サービス入門』（日本図書館協会多文化サービス研究委員会編 日本図書館協会 2004）

p37-38「Q. 新しく外国語資料を集めることになったのですが、何から手をつければよいのか迷っています。」

p46-47「Q. どういう方針で外国語資料を集めたらよいのでしょうか？」

p127-133「市川市立図書館多文化サービス方針等」

p134-136「大阪市立中央図書館 外国資料サービス検討結果」

（3） 選定準備

①新聞

全国紙の書評

日本語訳が出版された外国語図書の選定に役立つ。書評から、著者が外国人である図書を探し、その原著を選定する。書評では内容が要約されていることも多く、その本に対する評価や話題になっている理由が把握できるため、選定しやすい。雑誌などのベストセラーを追うだけでは把握できない資料の情報を得ることができる選定ツール。原著がマイナーな言語で、多言語に翻訳されている本であれば、重点言語に訳されているものを選定にかけるのもよい。県立図書館の海外資料担当では朝日、毎日、読売新聞の3紙から選定。

全国紙の広告

日本語訳が出版された外国語図書の選定に役立つ。新聞広告の新刊案内などから、著者が外国人である図書を探し、その原著を選定する。雑誌などのベストセラーを追うだけでは把握できない資料の情報を得ることができる選定ツール。原著がマイナーな言語で、多言語に翻訳されている本であれば、重点言語に訳されているものを選定にかけるのもよい。県立図書館の海外資料担当では朝日、毎日、読売新聞の3紙から選定。

朝日新聞グローブ

毎月第一日曜日に朝日新聞に付いてくる月刊紙。14面の「Bestsellers 世界の書店から」に、中国、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスのいずれか2か国のベストセラーが掲載されている。紙面にはベストセラー2冊分の書評も掲載されているほか、紙面では紹介されなかった書評は、ウェブメディア「GLOBE+」でも一部公開される。

「Bestsellers 世界の書店から」(<https://globe.asahi.com/series/11013155> 朝日新聞社)

②外国語雑誌

中国語の『亜洲週刊』、ドイツ語の『Der Spiegel』、ポルトガル語の『Veja』

外国語雑誌では各国のベストセラーが把握できる。一般の人が気軽に読める小説などが紹介されていることが多いことから、売れ続けている資料、人気作家の把握がしやすい。しかし、ベストセラーリストからは本の内容が分からないため、それぞれの本についてGoogle翻訳等を駆使し、各国の書店のウェブサイトなどから本の内容等を調べる必要がある。また、週刊誌は、数が多くて確認が難しい。市町村立図書館で選定ツールとして使う場合には、県立図書館から取り寄せることも可能。

英語の『Library Journal』

アメリカの図書館職員が選んでいるので、ある程度評価は定まった資料、ベストセラーだけを追っているは見つけることのできない資料を把握できる。なかなか他の選定ツールで見つけることができない資料が特集で扱われることもある。載っているのは英語の本のみ。市町村立図書館で選定ツールとして使う場合には、県立図書館から取り寄せることも可能。

③書店

書店が作成するリスト

外国語図書専門の書店が作成する選定リストは、日本語訳が出ていない外国語図書の選定に役立つ。他の選定ツールで見つけることのできない資料を見つけることができるほか、日本でベストセラーとなった本の翻訳なども多く紹介してもらえる。決まったテーマでリストを作成してもらうことも可能で、リストに載っている資料は確実に購入できるという点が魅力。県立図書館では書店の店頭等で配布しているリストを職員が持ち帰り選定に使用することもある。日本語であらすじや要約を書いてくれる書店もあるが、タイトルと著者のみのリストの場合も多い。その場合、それぞれの本についてGoogle翻訳等を駆使し、各国の書店のウェブサイトなどから本の内容等を調べる必要がある。

店頭配布のリストの例：金原瑞人「BOOKMARK」、K-BOOK 振興会「ちえっく CHECK」

書店に並んでいる翻訳書

日本語訳が出版された外国語図書の選定に役立つ。職員が書店に足を運び、書店に平積みされている売れ行き好調の図書の中から著者が外国人である図書を探して、その原著を選定する。原著がマイナーな言語で、多言語に翻訳されている本であれば、重点言語に訳されているものを選定にかけるのもよい。

④インターネット情報

書店のウェブサイト

【中国語】

- 豆瓣 <https://book.douban.com/>
- 亜東書店 <https://www.ato-shoten.co.jp/>
- 博客来 <https://www.books.com.tw/>

【韓国語】

- 高麗書林 <http://www.komabook.co.jp/>
- Yes 24 <http://www.yes24.com/>

【ベトナム語】

- Tiki <https://tiki.vn/>

【英語・ドイツ語など】

- 各国 Amazon

⑤受賞作品

一般洋書

- ・ブッカー賞
- ・^{ぼうじゅうん}矛盾文学賞（中国）
- ・^{いさん}李箱文学賞（韓国）
- ・ノーベル賞 など

児童洋書

- ・ニューベリー賞（アメリカ）
- ・コールデコット賞（アメリカ）
- ・カーネギー賞（イギリス）
- ・ケイト・グリーナウェイ賞（イギリス） など

(4) おすすめの資料

Very short introductions シリーズ

⇒英語で様々な分野について簡単に紹介しているシリーズ。日本語訳翻訳されている本も多く、タイトルの一覧は日本語版の公式ホームページで確認できる。県立図書館で多数所蔵しているため、選定の際に取り寄せて現物を確認することが可能。

日本人作家の翻訳書

⇒利用も多く選定もしやすい。おすすめの資料は、ドラマ化、映画化作品の翻訳本や、毎年韓国の図書館の貸し出しベストランキングに入る東野圭吾、毎年ノーベル賞を期待される村上春樹、全米図書賞をとった柳美里、ブッカー賞を受賞した小川洋子など。

日本語学習資料

最も基本的な資料。県立図書館の所蔵資料はウェブサイトで公開されている。県立図書館から取り寄せて選定することが可能。

県内市町村発行の生活ガイド

最も基本的な資料。自館のある地域やその近隣の地域の生活ガイドを集めるとよい。埼玉県立図書館では市町村に寄贈依頼を行う形で収集している。

【参考】

「県内市町村の国際施策の実施状況調査」

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/keikakutoukei/kokusaiseisakuchosa.html> 埼玉県)

県内市町村の多言語版生活ガイドの発行状況が分かる。

「埼玉県と県内市町村の多言語版生活ガイドブック」

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/collection/mcult/multicultural.html#livingguide> 埼玉県立図書館)

埼玉県立図書館で所蔵している多言語版生活ガイドブックの一覧が確認できる。

3. 選定方法

本の情報を収集し終えたら、収集方針や選定基準、自館の状況などをもとにそれぞれ選定を行います。

(1) 選定の種類（当館の場合）

書誌選定

新聞や雑誌、目録等の情報から図書を選定する方法

リクエスト

利用者から購入希望のあった図書を選定する方法

寄贈

個人または団体により、無償で提供された資料を選定する方法

見計らい選定

新刊の図書現物を見て、購入の可否を検討する方法（外国語図書の選定では使われない）

(2) 書誌選定

埼玉県立図書館海外資料担当の例

1. 選定担当(1名)が選定ツールを準備し、回覧する。
2. 海外資料担当5名それぞれが収集方針や選定基準をふまえてインターネット情報などを確認し、選定する。(点数制：○=1点 △=0.5点 ×=0点)
3. 選定担当が点数を集計し、2.5点以上のものを購入。

※選定会議で選定するなどといった方法もあるが、外国語図書の場合はそれぞれの資料について各々が時間をかけて調べる必要があるため、埼玉県立図書館の海外資料担当では回覧方式をとっている。

海外資料担当の選定回覧票

海外図書 選定（購入） 回覧				
ご意見、寄贈情報等ありましたら、お知らせください。				合計点が2.5以上のものを購入します
				○・・・1
職員1	職員2	職員3	職員4	選書担当
				発/著
				△・・・0.5
				×・・・0

(3) リクエストの選定

埼玉県立図書館海外資料担当の例

1. 購入希望を受け付けたらリクエスト担当(1名)がその図書の情報を調べて、回覧する。
2. 海外資料担当5名それぞれが収集方針や選定基準をふまえてインターネット情報等を確認し、選定する。(点数制：○=1点 △=0.5点 ×=0点)
- 3-1. リクエスト担当が点数を集計し、2.5点以上のものを購入。
- 3-2. 購入しない場合は、その理由とともに回答

(4) 寄贈図書の選定

- ・書誌選定と同様の方法で選定する。
- ・非売品や外国語の地域資料の収集に有効。
- ・寄贈依頼をする場合もあり。(例：大使館や県内市町村への依頼)

(5) 選定に役立つサイト

所蔵状況調査

- ・NDLサーチ：国内の所蔵状況を調査できる
- ・埼玉県内図書館横断検索：埼玉県内の所蔵状況を調査できる

選定準備

- ・各国のAmazon
- ・各国の書店のサイト

英語以外の文字入力

- ・Google翻訳の手書き機能

書誌情報の検索

- ・各国の国立図書館のOPAC：ISBNに対応しているところがほとんどであるため、文字入力ができなくても検索できる。

4. 選定の際のポイント

実際に選定を行う際には様々な項目を総合的に判断し、購入すべきかどうかを決定します。特に、外国人の利用者の声をきく機会は少なく、どのような本が求められているのか判断するのは、困難な場合もあります。資料を利用してもらいたいターゲットをイメージして選定することが大切です。

ポイント

- ・ 内容（文体、参考文献の有無、索引の有無、充実度）
- ・ 著者（著者の評価、著作の所蔵状況、受賞歴）
- ・ 蔵書（県内所蔵状況、類書の有無）
- ・ 言語（他言語への翻訳の有無、他言語での所蔵状況、重点言語）
- ・ 価格（予算、費用対効果）
- ・ その他（形態、利用の可能性）

⇒資料を利用してもらいたい対象をイメージして選定することが大切

5. まとめ

日本語に不慣れで、情報を入手することに困難を抱えている、民族的・言語的・文化的少数者の方にとっては、図書館で得た一つの情報が生活の大きな支えとなることもあります。今日からでもはじめられる多文化サービスは沢山あります。まずは、地域に住む外国人の状況を調べ、小さくても良いので外国語図書のコーナーをつくることから、はじめてみましょう。

埼玉県立図書館海外資料担当は、県内市町村立図書館等の多文化サービスを支援します。

多文化サービスを実施するに当たって、困ったことや分からないことがあれば、お気軽にご相談ください。

埼玉県立熊谷図書館 海外資料担当
〒360-0014 埼玉県熊谷市箱田 5-6-1
電話：048-523-6291 FAX：048-523-6468
メール：lib-kaigai@pref.saitama.lg.jp